

基本情報

- ・面積 33.8万km²（日本：37.8万km²）
- ・総人口 約543万人（2013年2月末（速報値））
- ・首都 ヘルシンキ（約60万人、2011年末）

（参考：日本）

- ・年間出生数 約6.1万人（2010年）
- ・合計特殊出生率 1.8（2012年）
- ・乳児死亡率 2 / 1,000（2010年）
- ・年間出生数 約105.1万人（2011年）
- ・合計特殊出生率 1.41（2012年概数）
- ・乳児死亡率 2 / 1,000（2011年）

（出典）外務省HP、23年人口動態調査（厚生労働省）、平成23年人口推計（総務省）、母子保健の主なる統計（平成24年度母子保健衛生研究会）

妊娠・出産期の支援

- ・地方自治体が設置するネウボラ（Neuvola; Maternity and child health clinics）において、妊娠期から就学前までの支援を実施。健診、保健指導、予防接種等のほか、子育てに関する相談や、必要に応じて他の支援機関との連携を行うワンストップの母子支援地域拠点となっている。

※ネウボラでは、看護師、保健師、ソーシャルワーカー、心理士らが親子をサポート

- ・また、妊娠初期に健診を1回以上受けている場合には、妊娠手当（Maternity grant ; 140ユーロ 又は 育児グッズの詰合せ）が支給される。
- ・妊婦健診、出産費用等はほぼ無料。

ネウボラとの出会い

フィンランドに移住したのは2000年、生後6か月の息子連れてでした。

日本に暮らしていた当時、アレルギーによる息子の皮膚の症状はとてもひどく、フィンランド人の夫と私は途方に暮れていました。

フィンランドに着いて、息子をすぐ連れて行った所は、近所にあるネウボラ。ネウボラとは、心と身体の健康に関わる相談所で、各居住地区に点在しています。母親のお腹の中に誕生したときから就学までのあいだ、ここで定期的に子どもの成長を観察し、医師による定期健診も予防接種も歯科健診も、育児の悩み相談も、無料で行われています。

担当の保健師さんの部屋には、あたたかみのあるデザインの机や椅子が並んでいます。40分という相談時間——そのあまりにゆったりとした時間の流れに、健診に来たことをふと忘れ、親の私たち自身が、なにか悩み相談やカウンセリングを受けに来たかのような錯覚をおぼえました。確かに親の心のケアを行うのも、ネウボラのりっぱな役目なのです。

病院・保育園・学校と連携して

健診では小児科医による診察も行われ、息子のアレルギーの状態を把握した医師は、すぐに専門の医療機関で診てもらえるよう診察の予約をとってくれました。

ネウボラ ● 出産・育児相談所

フィンランド市在住 藤井ニエメラみどり

カルテと成長の伸びを示す観察記録は私たちの承諾を得て、ネウボラと病院とのあいだを行き来します。

その後のネウボラの定期健診でも、保健師は前回からの進展や症状の具合を概ね把握していて、適宜アドバイスをしてくれました。

またしばらくして、月150ユーロ(約1万9500円)の特別育児手当支給とミルク代一部補助の決定も受けました。アレルギーのケアには、専門外来の診察料に特別ミルクの購入、食材の調達やスキンケアにと、なにかと出費がかさみます。病院とネウボラで手当の受給を勧められ、私たちはさっそく国に申請したのです。

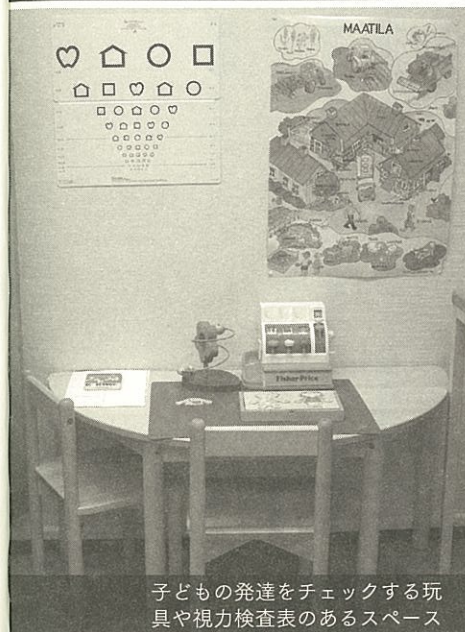
ネウボラの利用をきっかけに、必要とする医療サービスや社会保障、育児に関するさまざまな情報が苦勞なく手に入るようになりました。私たちはいつの間にか、ずっと気楽にアレルギーと向き合えるようになったのです。

こうしたネウボラとの連携は、保育園にもおよびます。たとえば、言語の発達の遅れに保育園でいち早く気づいた場合、連絡を受け取ったネウボラは診察を行い、必要に応じては言語セラピーなどのサポートが受けられるようにとり計らわれます。

また、ネウボラに蓄積された膨大な情報と記録は、小学校入学と同時に、校内の保健センターに移され、その後も同様に心と身体に関わるケアが行われていくのです。



ネウボラ内の子どもの遊び場を兼ねたロビー。おもちゃが置かれ、カーテンのデザインも明るく、あたたかな雰囲気をつくろげる



子どもの発達をチェックする玩具や視力検査表のあるスペース



お父さんとネウボラへ。民家のような外観



子どもの健診を行う部屋。子どもの絵がはられ、棚にはおもちゃも置かれている